

公益財団法人フジシール財団 設立20周年記念助成プログラム パッケージ・イノベーション研究への特別助成 募集要項

1. プログラムの趣旨

フジシール財団は2025年12月に設立20周年を迎えます。

その記念として、2050年の新しい包む技術へ挑戦する〈未来の包む〉をテーマに助成を行います。

AI・機械学習の活用によるパッケージへの貢献およびカーボンニュートラルなどのプラスチックの環境問題への解決など、未来のパッケージのイノベーションにつながるような研究へ挑戦してください。

総額 1.7億円 （17～20件（予定））

【対象となるプログラム】

- 1) パッケージ・イノベーション特別研究助成
- 2) 海外研究留学助成

詳細に関しては、それぞれの募集要項をご参照ください。

従来の研究助成は、例年通り行います。重複の申請は出来ません。

「パッケージ」について

パッケージは、商品・製品などの価値のあるものを包むもので、紙・プラスチック・金属・ガラスなどの様々な素材が使われています。消費・使用後には廃棄されることが多いですが、以下に記載したようなパッケージの機能によって、生活の豊かさと社会の持続性に貢献しています。

- 保護機能（空気・水・紫外線・熱・温度・匂い・菌・汚れ・磁気・衝撃・振動・外圧・悪戯・誤用などからの保護、遮断性、安定性、長期保存性、強度など）
- 表示機能（物流表示・商品表示・取扱表示・使用包装材料・リサイクル表示などの情報伝達、バーコード・QRコード・RFID等の表示方法など）
- 販売促進機能（宣伝、デザイン、ブランドなど）
- 流通時の利便機能（運びやすさ、持ちやすさ、保管しやすさなど）
- 販売時の利便機能（陳列しやすさ、販売単位識別など）
- 消費時の利便機能（使いやすさ、開封、携帯性、再封、使用単位識別、食べやすさなど）
- 廃棄時の利便機能（廃棄しやすさ、省ゴミ、分別のしやすさ、リサイクルしやすさなど）
- 快適機能（ユニバーサルデザイン、清潔、未開封性など）
- 環境配慮（流通・保管・販売コスト削減、詰め替え、3R、環境配慮材料など）

パッケージは、生活に必要不可欠な、身近で重要なものであり、ライフスタイルや販売形態などの変化とともに変化を続けています。パッケージを作るにあたっては、安全・衛生、機能、利用者、社会・環境、経済性などを考慮する必要があり、パッケージは、材料・素材、製造、包装機械、マーケティング、デザイン、物流、法律、環境問題など、幅広い分野とつながっています。

2. 助成の対象

パッケージ・イノベーション特別研究助成	海外研究留学助成
① 所属機関：主たる勤務先が国内の大学あるいは高等専門学校とその附置研究所、共同利用機関、公的研究機関であること	①2026年3月31日現在満45歳以下であること
② 職位：上記の機関に所属し、主体的に研究を進めている原則常勤の研究者、職務専念義務上、外部研究費の受給にかかわる制約がないこと	②博士号取得者又は2026年4月までに取得見込みの者
③ 機関承諾：当財団からの研究助成を所属機関が研究費として管理する前提のもとに、所属機関が応募を承諾していること	③日本国籍を有する者
	④申請時に日本国内の大学、または研究機関において研究を行っていること
	⑤研究を行うために、2026年4月1日～2027年3月31日の間に出発して留学を開始し、9か月
	以上海外の研究機関で研究を行うことが内定

④ 助成および応募の重複：当財団に対して同一年度に複数の応募申請をしていないこと	していること
⑤ 国籍は問いませんが、日本国内に居住する研究者であって、日本語での申請及び報告書の作成や成果の発表が可能であること	⑥留学先研究機関の責任者または受入研究室の責任者の承諾を得ていて、受入先承諾書を提出できること
⑥ 年齢制限はありません	⑦申請者の現在の研究指導者からの留学承諾書を提出できること
	⑧当財団に対して同一年度に複数の応募申請をしていないこと
	⑨本財団が定める以下A～Gのいずれかに関する研究に従事できること

[研究分野]

- ・パッケージに寄与する研究を対象とします。（以下A～G参照）
- ・特に、パッケージ分野の環境対策に関する研究、従来にない斬新な発想や枠組みで取り組む研究、パッケージに関する認識や研究活動に新たな広がりや深みをもたらすことが期待される研究を優先的に対象とします。

A：パッケージとAI

- A-1.マテリアルズ・インフォマティクス(※)を活用したパッケージの新素材の探索・開発
(※)AIや機械学習などの情報科学を用いて、材料開発の効率を向上させる取り組み
- A-2.耐久性や機能性に優れたパッケージ形状・構造の自動生成
- A-3.画像認識技術による廃棄物の識別・分別
- A-4.ユーザー行動分析に基づくパッケージのユニバーサルデザイン 等

B：2050年に向けたパッケージ分野における環境対策

- B-1.環境負荷低減材料を使用したパッケージ（バイオプラスチック加工技術、環境低負荷型高分子合成法・成形法、再生材加工適正向上）
- B-2.環境負荷低減デザインのパッケージ（材料使用削減デザイン、軽量化、リサイクル可能設計）
- B-3.パッケージの環境負荷を低減するリサイクルシステム（マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル技術、解重合触媒、パッケージのLCA、グリーンマーケティング）
- B-4.輸送効率の良いパッケージ

C：パッケージ材料と機能

- C-1.デザイン設計あるいはIoTなどの技術を活用し、従来よりも多くの情報伝達（消費者への商品情報の伝達・物流業者による管理情報の伝達）が可能となるパッケージ（物理的な表示面積拡大、ナノテクなど非可視での機能化技術、IoT活用などによる選択的情報伝達、エレクトロニクスによる表示機能）

- C-2.物流工程での破損なく、少ない材料使用量で内容物を効果的に保護可能なパッケージ（過剰包装を防ぐエコデザイン、緩衝材、易分離を可能とする表面改質技術）
- C-3.食品ロス削減を目指したバリア性とリサイクル性に優れたパッケージ（ハイバリア材料、リサイクル可能設計のバリア材技術、易分離機能をもつバリア材加工技術）

D：パッケージとヒューマンファクター

- D-1.安全性を向上させたパッケージ（内容物の誤使用、誤飲の防止）
- D-2.視認性を向上させたパッケージ（店頭での販売促進力のアップ、認識しやすいパッケージ、脳科学を応用したパッケージ）
- D-3.マーケティングにおけるパッケージ

E：パッケージング機械及びシステム

- E-1.作業者にやさしいパッケージング機械・システムの開発、最適化（新たな印刷技術、溶剤や薬剤を使用しない接着粘着加工技術や印刷技術、AI や自動化による熱・エネルギー低減可能な機械制御に関する研究を応用した包装方法）
- E-2.パッケージング機械・ロボット・システムによる少人化
- E-3.労働人口減少に対応したロボット・システムによる無人化工場構想

F：パッケージの新展開

- F-1.時代変化に対応するパッケージ（E コマース時代のパッケージ、ドローンによる輸送に適したパッケージ、AI を利用したパッケージデザイン、IoT 技術を使用・応用したパッケージ）
- F-2.トポロジーを利用したパッケージ、構造力学を利用した新形態のパッケージ
- F-3.これまでになかったパッケージの対象・用途・方法などに関する新規の概念やアイデア
- F-4 これまでになかった新しい形態のパッケージ

G：その他（A-F に当てはまらない分野）

3. 助成金額・助成期間・採択数

	パッケージ・イノベーション特別研究 助成	海外研究留学助成
助金額	500～1,000万円/件	1,000万円/件
助成期間	1年（2026年4月1日～2027年3月31日）	助成金の使用期限は申請書に記載の留学期間終了日から1ヵ月以内とします。
採択数	合計10件～13件程度（予定）	合計7件程度（予定）

4. 助成申請の要件

- ・ 同じ研究（用途）内容で他の機関に助成申請されることも差し支えありませんが、他の機関からも同一期間内に重複して採択された場合には、必ず当財団にご相談ください。故意に申告せず、重複した助成が判明した場合には、採択が取り消されることがあります。ただし、当財団は、同一の大きな目的に向けての研究であっても、個別の助成プロジェクトの目的や内容が異なっていれば、他の助成プロジェクトと並行して進めることは原則認めています。
- ・ 当財団の他助成との重複応募は認めておりません。

5. 助成金の支払い

パッケージ・イノベーション特別研究助成	海外研究留学助成
助成金は、2026年4月下旬までに、申請者が指定する銀行口座に振り込みます。	助成金は、留学出発日1か月前に申請者が指定する銀行口座に一括で振り込みます。

6. 助成金の使途

パッケージ・イノベーション特別研究助成	海外研究留学助成
申請に際して支出計画を提出して頂き、申請の研究に必要な経費について助成の対象とします。本助成金は、申請の研究以外の使用はできません。また、原則としてその計画に基づき支出して頂きますが、計画に変更が必要になった場合には、あらかじめ当財団担当までご相談ください。	海外の大学等研究機関に長期間留学する際の渡航費、留学に伴う経費ならびに研究費とします。

7. 応募の手続き及び選考について

(1) 応募期間・応募方法

応募期間 2025年9月1日 ～ 2025年11月11日

応募方法 本財団ホームページからWeb申請してください。
それ以外の方法での申請は受け付けません。

【申請時必要書類】

パッケージ・イノベーション 特別研究助成	海外研究留学助成
① 申請書 ② 関連論文（申請研究課題の関連論文を公表している場合のみ）	① 申請書 ② 申請者の研究指導者からの留学承諾書 ③ 受入れ機関の研究指導者の受入れ承諾書（受入れ承諾書には、受入れ機関からの給与等の支給の有無と、本助成に採択された場合にその支給額が変動するのか（「ポストドク最低保証額」との差額が支給される等）を明記してください。

（2）選考方法

助成の可否は、外部有識者等により構成される当財団「選考委員会」において選考を行った上で、当財団理事会で決定されます。必要に応じて、書類選考に加えて、面接を行う場合があります。

（3）選考結果

選考結果については、2026年1月末までに申請者にお知らせします。

8. 助成を受けた方の義務

（1）報告書類の提出

研究期間で研究の成果を、以下の報告書類を所定様式にて提出してください。

- ① 成果報告書
- ② 会計報告書

[提出期限]

パッケージ・イノベーション特別研究助成：2027年5月末日

海外研究留学助成：申請書に記載の留学期間終了日から2か月以内（研究内容を当財団へ報告することについて、事前に留学先から了解を得ておいてください。）

（2）成果報告書のホームページへの掲載

成果報告書を、当財団のホームページに掲載させていただきます。

公開時期に配慮が必要な方は事前にお申し出ください。

又、ホームページで公開する以外の内容については機密を保持します。

(3) 成果報告会での発表

助成を受けた研究内容、成果は、成果報告書提出後の8月頃に開催する成果報告会で発表して頂きます。

成果報告会は同年度に助成を受けられている方、及び過去に財団の助成を受けられた方々も自由に参加頂ける会です。

(4) 報告の義務

パッケージ・イノベーション特別研究助成	海外研究留学助成
① 研究論文の学会などでの発表 助成を受けた研究を論文等で他に発表される時は、当財団で助成を受けた旨、注記して頂くとともに、発表された論文等については当財団宛に提出願います。	① 留学への出立日前に、指定様式の「出立届」ならびに「学位取得報告」（申請時、博士号 取得見込みであった場合）を当財団へ提出ください。
② 研究計画内容の変更 研究計画内容の変更は、事前に当財団の承認を得てください。	② 申請書記載内容に変更が生じた場合は、速やかに財団宛てに報告してください。 （例：留学期間の変更、留学先の居宅や連絡先メール アドレスの変更等）
③ 所属機関、学部等、役職名の変更 助成期間の途中で人事異動等により所属機関、学部等、役職名が変更になった場合、すみやかに当財団に連絡するとともに、所定の変更届を提出していただきます。	③ 助成を受けた研究を論文等で他に発表される時は、当財団で助成を受けた旨、注記して頂くとともに、発表された論文等については当財団宛に提出願います。

(5) 不正行為等の禁止

助成決定後に、不正受給、不正行為、不正使用が判明した場合、助成金の返還を求めることがあります。

9. 個人情報の取り扱いに関する事項

- (1) 当財団の研究助成への応募に関わる全ての個人情報は、選考に関する手続き（選考と当財団からの連絡）のみに使用します。
- (2) 本人の同意がある場合を除き、第三者に開示又は提供しません。
- (3) 助成決定後、当財団のホームページ等に次の情報を公開します。

- ① 助成対象者の氏名、所属機関、役職名
- ② 研究課題
- ③ 研究期間
- ④ 助成金額
- ⑤ 成果報告書
- ⑥ 当財団主催の行事等に参加した際、当財団で撮影した写真
- ⑦ 留学先・留学期間（海外研究留学助成のみ）

「お問い合わせ先」

公益財団法人フジシール財団
Fuji Seal Foundation

〒532-0003 大阪市淀川区宮原 4 丁目 1 番 9 号

TEL : (06) 6350-1089

FAX : (06) 6350-3053

E-mail : zaidan_kenkyu@fujiseal.or.jp